

もっと詳しく知りたい方へ・・・

女性教育情報センターは、国立女性教育会館内にある、
男女共同参画および女性・家庭・家族に関する専門図書館です。

●文献情報データベース(所蔵検索)

http://winet.nwec.jp/bunken/opac_search/

図書の貸出、新聞記事の複写郵送サービスなどを行
っています。ぜひご利用ください！

男だから…だから？
女性教育情報センター所蔵展示(10月~12月)



<https://www.nwec.jp/event/center/dansei17-10.html>



編集・発行: 独立行政法人国立女性教育会館 情報課

〒355-0292

埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地

TEL:0493-62-6195

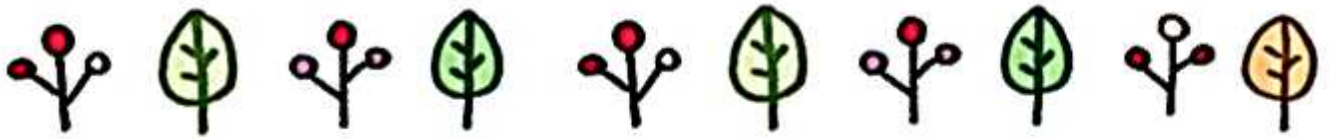
URL:<https://www.nwec.jp/facility/center.html>



発行: 2017年10月

本文中画像: amazonより引用





まず
本、あり❑。

-?を！に変える本との出会いを見つけるマガジン-
///Vol.10///

男だから・・・
だから？



男女共同参画と男性

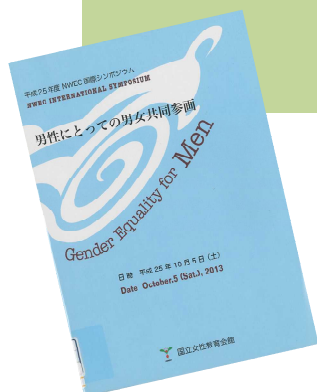
男女共同参画は、男性にとっても生きがいのある社会を目指す上で重要な課題です。

男女共同参画社会の実現のために、性別による役割分担意識の解消や働き方の見直しなどが求められ、男女ともに意識改革や行動をしていくことが大切です。

今回の展示では、男性に焦点を当てて、働き方や生き方についての資料を紹介します。



『男性についての男女共同参画』 国立女性教育会館 2013



平成25年度NWEC国際シンポジウムは、「男性についての男女共同参画」というテーマで行われました。国内外の参加者による報告資料がまとめられています。



国勢調査によると、2015年生涯未婚率は、男性23.4%、女性14.1% で過去最高だったそうだね。
今は、生き方が多様化しているよ。

『男おひとりさま道』
上野千鶴子著 法研 2009

配偶者との死別や離婚・非婚の理由で、老後を「おひとりさま」として過ごす男性が増えてきています。
男性ひとりでも、穏やかで幸せな老後を過ごすには？
自立した生活、家族の介護、子どもとの関係、自分の最期等、現実と向き合う身構え・心構えを説きます。

『正しいパンツのたたみ方：新しい家庭科勉強法』
南野忠晴著 岩波書店 2011

家庭科は女性だけが学んで、男性には必要ない？
数少ない男性の家庭科専任教員である著者が考える「家庭科を学ぶこと」とは。
男女共に必要な生活力を向上させ、社会で自立するためのヒントが見つかった1冊です。

過去5年間に介護・看護のため前職を離職した者が約48万人もいます。そのうち女性が約8割を占めていますが、男性ならではの介護の問題もあります。
(就業構造基本調査2012年)



『迫りくる「息子介護」の時代：28人の現場から』
平山亮著 光文社(光文社新書;682) 2014

近年息子が介護者になることが増加していますが、実態はあまり知られていません。息子介護者からの聞き取りを元に、介護者になった背景、家族や兄弟、妻、友人との関係、また仕事との両立について考察しています。弱音を吐きづらい男性社会も垣間見えます。

『ケアメンを生きる：男性介護者100万人へのエール』
津止正敏著 クリエイツかもがわ 2013

男性介護者において一番の問題は、仕事と介護の両立です。そのためには、これまでの介護システムやスタイルにこだわらず、また女性と全く同じようにできなくてもいい、男性介護者として一人ひとり、それぞれの介護がある、とエールを送る1冊です。

ジェンダーによる固定的性別役割分担意識は、生きづらさにつながっているものがあるんだね。



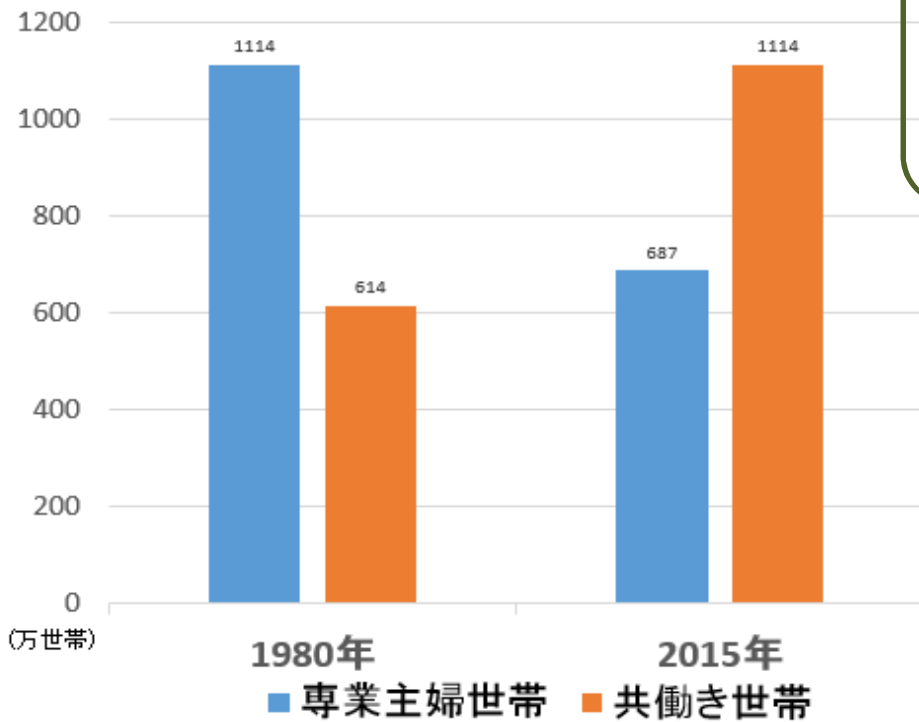
『ジェンダーの社会学 入門』
江原由美子、山田昌弘著 岩波書店 2008

ジェンダーの概念から、女らしさ、男らしさとは何か、現代の課題など基礎的な知識を得ることが出来る入門書です。

『男らしさの社会学：揺らぐ男のライフコース』
多賀太著 世界思想社 2006

男らしさについて、「学校でつくられる男らしさ」、「企業社会と男らしさ」、「父親の葛藤」など、様々な視点から論じています。男らしさについてじっくりと考えたい方におススメです。

家族のあり方の変化



参考:男女共同参画白書(H28)

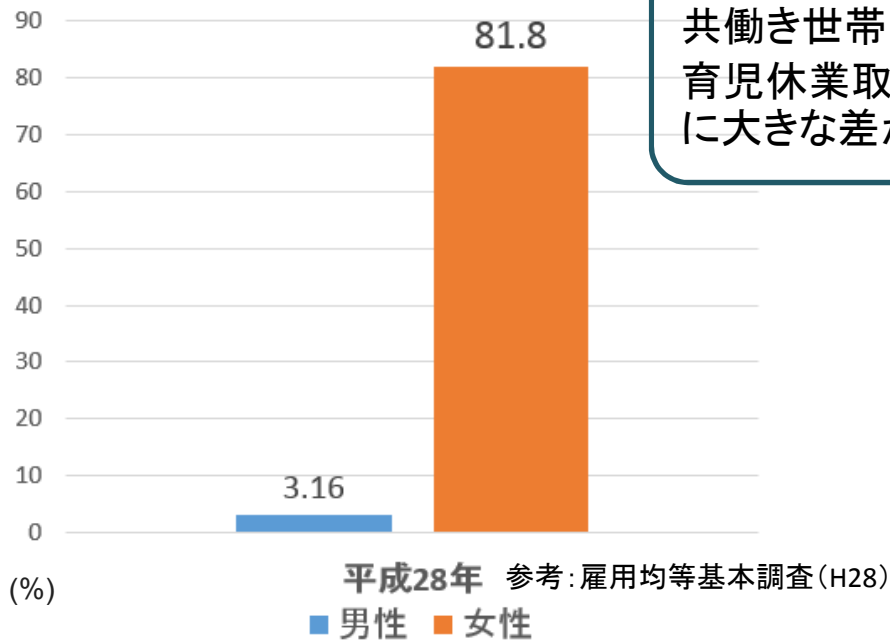
現在では共働き世帯が増加しているんだね。どうすれば仕事も家庭も大切にできるのかな。



『仕事と家庭は両立できない? : 「女性が輝く社会」のウソとホント』
アン＝マリー・スローター著 ; 篠田真貴子解説 ; 関美和訳
NTT出版 2017

共働き世帯が増加する中、ワーク・ライフ・バランスは、男女共に考える社会の問題です。長時間労働や性別分業意識が根強く残る職場や家庭をどう変えていくか。今後の働き方、生き方の参考になります。

育児休業の取得率



共働き世帯は増えているのに、
育児休業取得率にはまだこんなに
大きな差があるんだ！



『「パパは大変」が「面白い！」に変わる本』
安藤哲也＋NPO法人ファザーリング・ジャパン著
扶桑社 2017

父親が抱える悩みを「面白い！」と感じるためのアドバイスを紹介。子育て中の父親を取りまく現状や、知っておくべき子育てに関する基礎知識もあり、必見です。

もっと詳しく知りたい方へ・・・

国立女性教育会館が提供する「女性情報レファレンス事例集」

<http://winet.nwec.jp/tictconsult/>

(24) 男性の育児休業について知りたいのですが。